

「教育実習」のための新しいビデオ教材の開発

宮 本 友 弘

本年度、「教師教育教材の制作と評価分析」プロジェクト（以下、教師教育プロジェクト）では、「教育実習」をテーマとしたビデオ教材（4タイトル）の開発を行ってきた。同テーマを扱った教材については、昭和60年度～61年度にかけて、「教育実習の日々」シリーズ、ならびに、「実習生の授業」シリーズとして、すでに計15タイトルが制作されている。したがって、本年度の教材は、それらの改訂版と位置づけることができる。

しかしながら、事例映像を単に新しくしただけの改訂ではなく、これまでとは異なった観点から「教育実習」を捉え、教材として新しい構成を考案した。また、事例の収録においても、新しい方法を試みている。

本稿では、こうした点を中心に本教材の概要について報告する。

1. 新しい内容構成

これまでに、「教育実習」をテーマとして制作されたビデオ教材のうち、「教育実習の日々」シリーズの内容は、事前指導、実習生の授業、研究授業、授業参観、教材の準備、学校行事の参加等の各場面を時系列に並べて、実習の全過程のドキュメンタリーとして構成されている。また、「実習生の授業」シリーズの内容は、「教育実習の日々」シリーズで部分的にしか使用されていない研究授業の場面を、本来の授業時間の長さにしただけである。

これらに対し、本年度は、教材のねらいを「実習生の授業の変容」ということに焦点化した。すなわち、「教育実習」の学習指導を中心とした一連の過程（図1）のうち、教育実習生の授業とその前後の活動、ならびに、指導教官（担当教員）による指導を実習期間の初期・中期・後期の3段階に分けて収録し、学習指導を中心とした教育実習の過程と取り組みについて理解させること、特に、実習生の授業と意識がどのように変容していくかに着眼させることを目的とした。また、生徒との日常の交流場面（休み時間、給食、清掃など）や他の実習生との交流場面（実習生の控え室の様子など）も、授業の変容に及ぼす要因として位置づけて、映像化を試みた。

収録は、大学4年生2名の教育実習を利用して行われた（表1）。具体的な収録内容については、本プロジェクトの担当ディレクターである、飯森彬彦（放送教育開発センター助教授）が作成したロケーション用コンテ（付録）を参照していただきたい。なお、このコンテは、高等学校での教育実習についての収録用ではあるが、基本的に中学校についても同様である。

両実習において収録された映像に基づいて、それぞれ次の観点から2つの編集バージョンの教材が開発された。

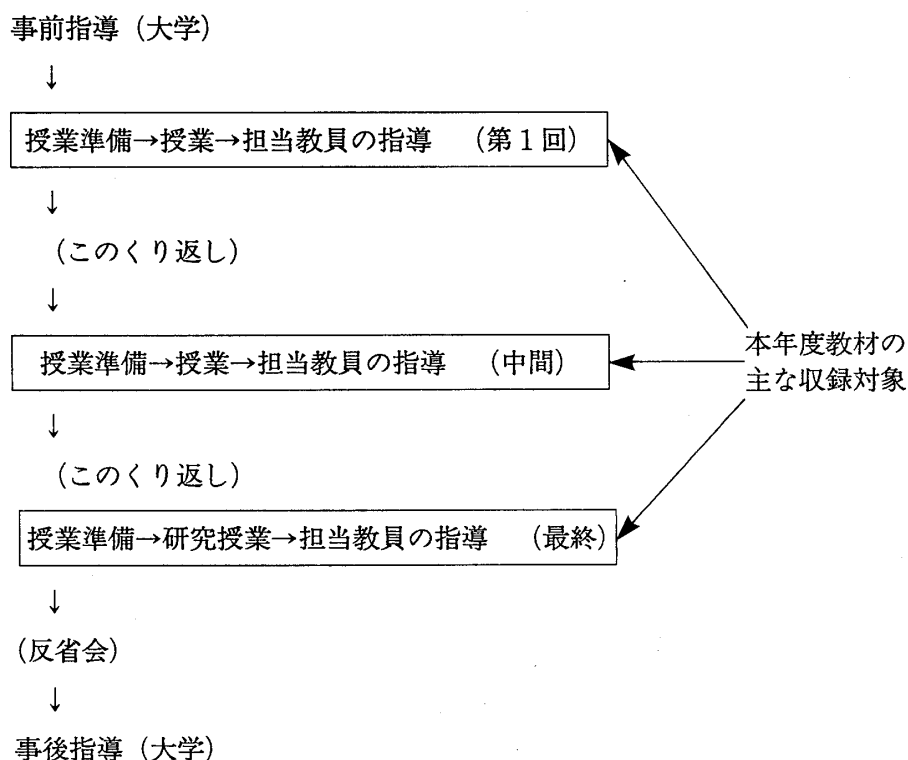


図1 学習指導を中心とした教育実習の過程

表1 出演者

性別	実習先の学校種	担当科目	実 習 期 間
女	中学校（市立）	社会科地理	平成8年9月9日～9月21日
男	高等学校（県立）	公民科現代社会	平成8年10月2日～10月17日

①第1回目の授業と研究授業の場面を中心に、それらにつながる事前指導、授業準備、ならびに、生徒との交流を加え、時間的な流れに沿って実習生の変容を概観できるもの。ただし、以前の「教育実習の日々シリーズ」のように実習全過程ではなく、あくまでも学習指導とそれに関係するものを軸とする。

②第1回目の授業と研究授業から、第1回目の授業の反省会において指導のポイントとなった授業のスキル（話し方、指名、発問、板書、教科書・資料の使い方、ノート指導、机間巡視、メディア利用、つまづいた生徒への指導など）に関わる部分を抽出し、各スキルに該当する箇所について両授業の場面を比較できるような構成にする。

なお、現時点（平成8年12月）では、いずれも仮編集版である。

2. マルチアングルによる収録

これまでの授業場面の収録においては、2台～3台のカメラが教室内に持ち込まれ、担当ディレクターが各カメラの映像をモニターしながら、スイッチングして、1本のビデオテープに記録されてきた。いわゆる中継方式の収録であり、その後の編集作業が効率的に進められる利

点がある。

しかしながら、この方法によって収録された映像は、素材としての利用可能性が限定的になり、本年度の教材のようなフレキシブルな編集は不可能となる。特に、授業を多角的に再現する上では、不向きといえる。

そこで、本教材では、図2のように3台のカメラを配置し、同時並行に収録して、授業を多角的に捉えることを試みた。各カメラの役割は、次の通りである。

- ①カメラA：指導する実習生の所作を収録する。
- ②カメラB：特定の生徒の反応、活動を収録する。
- ③カメラC：教室全体の様子を収録する。

各カメラで収録された映像の例を示したものが、図3である。

今回、用意したカメラの台数、ならびに、それらの位置設定が適切であるかどうかについては、現段階では結論づけることはできない。とはいえ、少なくとも本教材のように、同一素材から複数の編集バージョンを開発する上では、有効であるように考えられる。

現在、新しい記憶媒体として登場したDVDでは、映像をマルチチャンネルで記録することができるため、本教材のように複数のカメラで同時並行で収録された映像をそのまま記録・再生することが可能である。これにより、教授者・学習者が、必要に応じて適宜、映像を選択（すなわち編集）できることになる。

以上、本年度は、従来にはない新しいタイプの教材の開発を試みた。今後は、本教材の実証的な評価を行い、こうした新しい試みのさらなる精緻化が必要であろう。

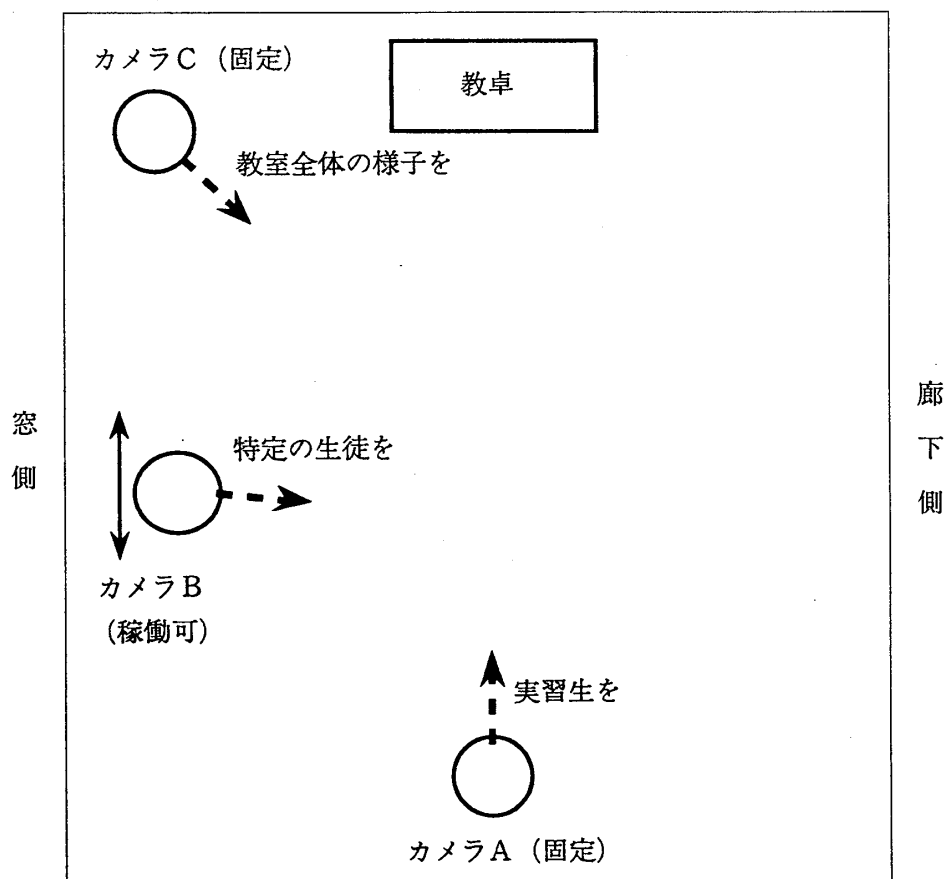
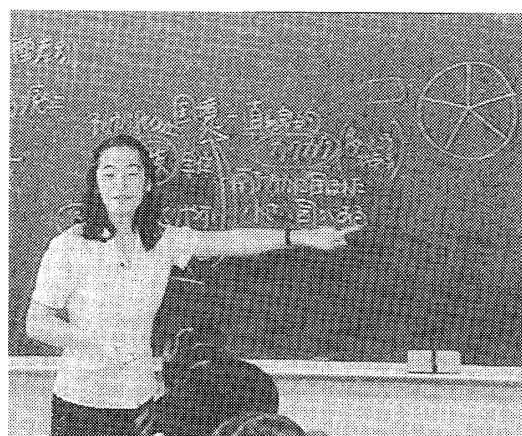
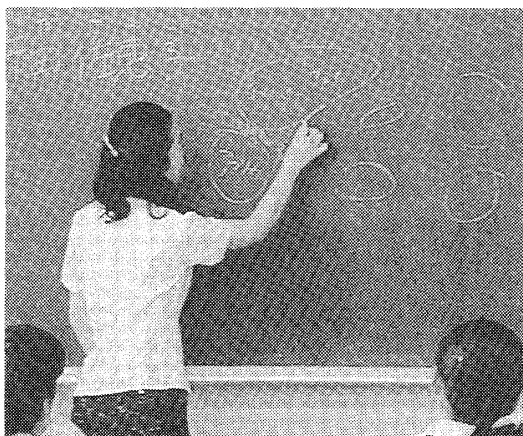


図2 各カメラの位置と役割

第1回目の授業

研究授業

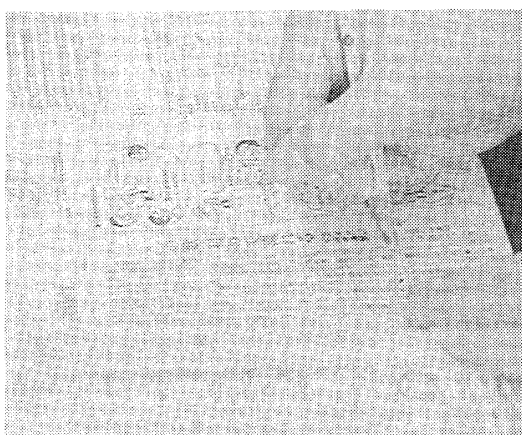
カメラA



第1回目の授業

研究授業

カメラB



第1回目の授業

研究授業

カメラC



図3 各カメラで収録された映像の例
(中学校における実習)

付録

ロケーション用コンテ（高等学校用）

「シーン」と映像内容	〈音声〉とコメントまたは付加文字情報と（ねらい、その他の参考情報）
1. 「イントロダクション」 実習生の授業のひとこま	〇〇君、〇〇大学〇〇学科〇年生 〇〇君は平成8年10月2日からの2週間教育実習を行なった。 これはその2週間の授業の記録である。 (タイトル、このソフトの内容を簡潔に紹介する。視聴する学生の関心をそそるために、できるだけ授業場面の中から、面白い部分を用いる)
2. 「受け入れ校」 登校時の学校（できれば） 運動場での部活	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校、生徒数〇〇人、各学年〇学級。 静かな住宅地にあるこの普通科の高等学校は〇〇君の母校でもある。 3年前卒業したこの母校で〇〇君は1年生「公民・政経」の授業を受け持つことになっている。 (授業のステージとなる学校を客観的に紹介する)
3. 「オリエンテーション」 校長先生の話を聞く〇〇君 話をする校長先生 緊張している〇〇君	〈校長先生の話・「心を引き締めるような言葉」あるいは「暖かい励まし」など感情に訴える部分を短く〉 この高等学校では10月、21人の実習生を受け入れた。〇〇君もその中の一人。 (この学校の教育実習生受入の基本的な方針や具体的な指導計画を補足するとともに、実習生の次第に緊張していく様子を表現したい)
4. 「授業参観」 1年〇組、授業の雰囲気 授業する指導教師 参観してメモなど取る〇〇君	〇〇君の授業を指導することになったのは山崎教諭、教師経験〇〇年。 実習初日、オリエンテーションの後には、まず指導の山崎先生の授業を見る。 このクラスの次の授業はもう〇〇君が担当することになっている。 (さししまった課題、それにどう対応しようとしているか、〇〇君の授業参観のシーンを注意深くフォローすることで、彼の心理なども含めて表現したい)
5. 「指導案の検討」 検討する山崎先生と〇〇君 変わっていく指導案	〈二人のやり取り〉 いよいよ翌日担当する最初の授業の指導案を、山崎先生にみてもらう。 (指導を受け、変化してゆく指導案、場合によっては生じる意見の衝突、めざす授業が形成されてゆく過程を忠実に描く)
6. 「山崎先生の指導方針」 山崎先生と〇〇君 山崎先生	〈はじめは、検討している映像にかぶせ、音声だけで、後に顔だして、 1. わたしの指導方針 2. 具体的な指導過程、スケジュール 3. 実習生への期待、希望〉 (指導の方針と具体的なステップ、そしてその背景にある考えを、一人〇〇君だけでなく、実習生一般に広く伝える言葉として紹介)
7. 「〇〇君の実習に臨む気持」 〇〇君（やや斜め前方から、 ローアングルのアップショット を中心に、前向きな姿勢を） 教材や指導案	〈〇〇君の話 1. この教育実習の努力目標 2. 大学で学んできたことと授業の関連 3. 担当する单元への取組 4. オリエンテーションや授業参観などを体験し、いよいよ授業に入る気持ち〉 (〇〇君なりの実習を迎える気持ちを素直に語ってもらう、最後のインタビューと比較する伏線となる。説明的で冗長になるおそれがある)
8. 「時間の経過と緊張の高まり を表現する短いシーン」 (現地で適切な映像を拾う)	(音楽、または無音そしてチャイム)

『シーン』と映像内容	〈音声〉とコメントまたは付加文字情報と（ねらい、その他の参考情報）
<p>9. 『最初の授業』</p> <p>（入ってきたときの緊張した様子から、授業が終って教室を出るまで、3台のカメラで克明にバラ収録。A=実習生、B=生徒、C=全体状況）</p>	<p>最初の授業である</p> <p>〈授業のやり取り〉</p> <p>（できるだけ授業のようすを、克明にもらさず収録する。これは、実習の全体像を伝えるドキュメンタリーのほかに、最初と最後の授業を分析比較するソフトを作るためである。ドキュメンタリーでは、実習生のまだ固さのとれない様子、しかし一生懸命な様子、時には生徒に適当にあしらわれているような様子、生徒の先生を見定めようとしている好奇心など、初回らしい場面、上手とはいえないがひたむきさが好感を呼ぶような場面を生かしたい。なお授業の後、実習生の話を録音し、どきまぎした気持ちや、終わったときのほっとした気持ちなど、実感のこもった話が取れた場合はその話を適応する場面にかぶせたい）</p>
<p>10. 『授業の反省検討』</p> <p>授業の場面 検討しあう山崎先生と〇〇君 FO（場面転換）</p>	<p>〈二人のやりとり・授業場面にかぶせて先行、知らぬ間に反省会に場面も転換〉</p> <p>放課後の反省会、</p> <p>（厳しい指摘がほしいしが、さらに実習生の意欲を高めるような、暖かさの感じられる指導場面としたい）</p>
<p>11. 『生徒との交流』</p> <p>学校生活の中で、ちょっとした実習生と生徒との交流があれば見逃さず収録し、様々な場面をワイプ処理でリズムカルに展開。</p> <p>例えば</p> <p>*部活 *掃除 *体育祭準備 *学食 *HR活動など</p> <p>一緒に汗を流す、食事を共にする、名前を覚えるなど</p>	<p>よい授業、それは授業だけで独立し出来上がるものではないのではあるまいか。教える側と教わる生徒との普段の心の通いあいを欠かすことのできないのではないだろうか。こうした考えから〇〇君は、学校生活のさまざまな場面で後輩の生徒との交流を心掛けた。</p> <p>〈生徒とI君の軽いやりとり〉</p> <p>（あくまでも授業を成立させるための生徒とのコミュニケーション場面であることを考慮し、短いいくつかの場면을積み上げる。一つの場面があまりクローズアップされないように注意する。予定にない場面もいかしたい。教える側では生徒と最も近い距離にいま〇〇君を表現し、授業シーンばかりで変化のない流れに、アクセントをつけたい）</p>
<p>12. 『中間期授業』</p> <p>大分なれたようすを1カメラでスケッチ</p> <p>授業</p> <p>授業終了後、質問に来る生徒 生徒の相談にのる〇〇君</p>	<p>〈授業のやり取り〉</p> <p>授業にも落ち着いた和やかな雰囲気が出てきた。</p> <p>相談に来る生徒も出てきた。</p> <p>〈生徒とのやりとり〉</p> <p>（学校生活に慣れ、生徒ともうちとけてきたような様子があれば、出来るだけ生かしたい）</p>
<p>13. 『生徒の見た〇〇君の授業』</p> <p>教卓のまわり、または実習生の控え室でインタビュー、生徒</p> <p>聞いている〇〇君</p>	<p>〈ショートインタビュー、数人の生徒に〉</p> <p>1. 授業のわかりやすさは</p> <p>2. 授業から受ける感じ</p> <p>（生徒には教師や傍観しているわれわれが気がつかない部分を見ていることがある。そうした話が聞ければ生かしたい。ただし、実習生を否定的にみているような話であれば、使用しないこととする。なお、この部分は実習生同士の授業に関する意見交換とすることも検討）</p>
<p>14. 『教材研究、研究授業へ』</p> <p>図書室などで教材をさがす プリント制作など</p>	<p>教育実習の期間もう残り少なくなった。実習の最後には多くの先生を前に研究授業をする。研究授業を前に教材の準備に忙しい。</p> <p>（授業の準備にも、成長の跡がうかがえるような、場面を生かす、忠実に準備のようすを追うこと）</p>

『シーン』と映像内容	〈音声〉とコメントまたは付加文字情報と（ねらい、その他の参考情報）
15. 『指導、研究授業へ』 指導案 それを基にした検討 遅くまでつきあう指導教師 時間の長さを表現する場面転換 例えばアウトフォーカス	〈二人のやり取り〉 (指導教師とのやりとりにも、最初の授業の前とは異なった、核心をついた話し合いになっていることがうかがえ、より一歩上の授業を目指している様子が描ければ)
16. 『研究授業』 授業場面、 最初の授業と同じ要領で、克明に収録、参観者は最初に映した以外は自然に画面に入る程度に	いよいよ、研究授業の時間である。 〈授業のやりとり〉 (最初の授業を意識して、対応した場面を生かす。その中で〇〇君の授業の進歩を表現する)
17. 『授業の評価』 授業場面、反省会、 指導教師の評価	〈授業への言及〉 (初めは授業場面にかぶせ、知らぬ間に場面転換、多少は辛辣な批評をいれるが、ねぎらいの気持ちのこもった発言を中心にする)
18. 『〇〇君、実習を振り返って』 〇〇君 落ち着いた正面からのサイズで	〈〇〇君の発言〉 1. この研修で得たもの 2. 反省点と後輩へのアドバイス (教育実習をやったよかったという気持ち、初めと教育・授業を見る目が多少異なってきたような様子などが生かせれば)
19. 『タイトル』 授業場面・実習日誌	〈音楽〉